

## 歯科矯正治療と顔

講師：与五沢 文夫

コーディネーター：岡村 麻未

### ◎矯正治療という仕事

歯科医療の中のひとつの分野である矯正治療は、近年広く知られるところとなってきました。矯正治療のことをまた歯列矯正ともいわれていますが、矯正専門に携わる私としては、歯列矯正という言葉にいささか抵抗があります。なぜなら、歯列矯正という響きは、凸凹の歯や隙間のある歯列のみを対象に、単にそれらを真っすぐにするような仕事と受け止められてしまう可能性があるからです。

矯正治療は、歯列とか歯並びに留まるものではなく、それらを含んでより広範囲の全体、すなわち咀嚼器官や顔の部分として捉え、それら全体に健全な機能をもたらすと同時に、形態面からも調和や美をもたらす目的をもっているものです。

咀嚼器官？一般の方にとっては聞き慣れない固い言葉ですが、いわゆる顎を運動させて歯によって食物を噛み、それを飲み込むための一連の複雑なシステムをもつ器官（顎、歯などの骨組み、それを動かす筋肉や皮膚、粘膜などの軟組織、神経系などを含む）ですが、言うまでもなく、人が生きていく上で最も重要なエネルギー摂取の門戸となる体の部分で、かつ顔を構成する大部分です。

咀嚼器官を扱う仕事が歯科医療ですが、とくに矯正治療は歯の位置の移動はもとより、顎の形や位置にも影響を及ぼす仕事ですから、咬むことの機能や人の顔貌、とくに横顔にダイナミックに影響をあたえます。矯正治療は顔の美と正しい機能を同時に満足させる目的を持っています。

### ◎矯正治療と抜歯

矯正治療はしたいけれど「歯を抜きたくない」ということをよく耳にします。矯正治療をする際に、歯を抜く必要のないケースや、歯を抜かなくてもなんとか治すことができるケースも勿論あります。しかし、日本人のケースでは、顔やあごの骨の形とか歯の大きさや形などの理由から、白人に比べて抜歯を必要とする頻度が高く、矯正治療の必要な人の過半数は抜歯が必要といえます。非抜歯矯正というキャッチフレーズを、時折見かけます。抜歯をしたくない、あるいは抜歯に恐怖心をお持ちの方にとっては心地良い響きでしょう。しかし、全てのケースに歯を抜かずに矯正治療の目標を満たす、そんな魔法のような方法はありません。人（矯正医）が人に対してできることには限界があります。歯列だけを捉えて、隙間の足りない分、強引に歯列を横にあるいは前に広げて歯の凸凹を直す、それ自体は比較的容易です。しかしその状態が体の、より全体にとって機能的に受け入れられるものかどうかの見極めが必要です。ましてやその結果が顔や口元の形を崩してしまうものであったら、何のための矯正治療かわかりません。矯正治療は歯列という部分だけでなく全体の調和を考えて行なうものです。全体的に機能の優れた構造は、形の上でも調和がとれていて、それを美しいと感じるものです。矯正治療はその人にとって幸せを提供する目的があります。

### ◎矯正治療と顔

顔を社会的な器官という人もいます。顔は人の肉体の一部ですが、特別な意味を持った部分です。人は顔から、その人の感情を読み取ったり、性質や健康状態、品格までも判断しようとしています。顔の印象は社会生活を営む上で、重要な役割を演じていることは十分に納得できることです。矯正治療はそのような顔の形や表情と深く関わっています。そこで今回は、矯正治療によって顔がどのように変化するかを取り上げました。矯正治療方針を立てる際には、歯の移動に伴って口元がどのように変化するか、また口元の形状を整えるためにはどのように歯を位置づけたら良いかを考えます。すなわち、歯の移動方向や量、口元の形の変化を互いに連動させながら治療の目標を決定します。矯正治療による口元の形は予測されるものであって、歯の移動の結果としてあと付けのものではありません。このことが、矯正治療のための抜歯とも深く関わっています。

「矯正治療は美しくするための医療ではありませんが、美しく調和をとるために行われる医療です」

与五沢 文夫（よごさわ ふみお）先生

よごさわ歯科矯正（東京都港区）院長

岡村 麻未（おかむら あさみ）先生

キャッシュチョイス代表・歯科医師